

児童生徒の好ましい傾向と学習及び生活上の課題（概要）

藤井寺市教育委員会は、昨年度実施された平成26年度全国学力・学習状況調査の結果も踏まえ、今回の調査結果を分析いたしました。

学習については、中学校では国語、小学校では算数の「授業の内容がよくわかる」という回答が平成26年度の結果に比べ増えています。このことは、ふだんの授業に課題解決型の学習を取り入れ、子どもたちが主体的に学ぶ機会が中学校においてもさらに多くなり、教員の授業における工夫改善が進められた結果であると考えられます。一方、基礎的な学力は身に付いてきているが活用力の確立にはまだ達していない現状が見られることから、根拠を示し説明する活動等を増やすなど、更なる授業の工夫改善に取り組む必要があります。

生活については、学校のきまりを守っていると回答した児童・生徒の割合は高く、特に中学校では規範意識の高まりが感じられることから、日々の生活を通し、行動に移せるよう指導することが大切です。いじめに関する質問について「いじめはどんな理由があってもいけない」と感じている子どもたちの割合は高いが、いじめ防止に対する意識が十分定着しているとは言いがたく、今後もいじめはどんな理由があってもゆるされないという意識の向上に努めていく必要があります。また、同じ時刻に寝起きしている子どもたちが多い傾向にはありますが、やはり心身の健康を保つため、早寝・早起きを心懸けることが大切です。

今後も、子どもたちが将来の夢や目標を持ち、いきいきと日々の生活を送ることができるよう、自己肯定感と豊かな人間性を育む教育の推進を図ってまいります。

本調査によって見られる本市児童・生徒の好ましい傾向と学習及び生活上の課題の概要については、以下のとおりです。

（1）学習について

児童・生徒の好ましい傾向

- 学習した基礎的・基本的な知識や技能を身に付けていること
- 国語において、漢字の読み書きができていること
- 算数において、基礎的な計算ができていること
- 授業で自分の考えを発表する機会が増えていること

課 題

- 複数の情報を的確に関連付けてまとめることや伝えたい事柄や根拠を明確にして自分の考えを書くこと
- 基礎用語や基礎知識、式や言葉を使って論理的に説明すること
- 学習内容の実感を伴った理解を十分図ること
- 科学的な理解とグラフ等からの情報や生活経験からの知識を結びつけながら活用し、考察すること

(2) 生活について

児童・生徒の好ましい傾向

- 学校に行くのが楽しいと思っていること
- 学校のきまりを守っていること
- みんなで協力してやり遂げて、うれしいと感じていること
- 人の気持ちが分かる人間になりたいと思っていること

課 題

- テレビやビデオ、ゲーム、メール等を「見たり」「したり」する時間を長すぎないように決め、家庭学習や読書等の時間を確保できるよう、計画的にバランスよく時間を活用すること
- 自分の良いところを見つけること
- 人やものとの出会いを通じて、自分の将来の夢や目標を持つこと
- 難しいことでも、失敗を恐れなくて挑戦しようとする
- 朝食を毎日食べること

学習面の課題から、各学校で「生きる力」（確かな学力・豊かな心・健やかな体）を育み、郷土を誇りに思う心を育て、子どもたちが意欲的に学習し、学びの達成感を感じ自己肯定感が育まれる授業が何よりも大切です。

そのため、学校は多様な学習形態や指導法を組織的に研究し、日々の授業で実践する必要があります。

また、「本やインターネット等で、必要な情報を的確に集める活動」「話し合いで、考えを広げ深める活動」「自分の考えをまとめる活動」「自分の考えや説明したいことをわかりやすく表現する活動」等の言語活動の実践をさらに進めていく必要があります。

教育委員会では、「学力向上推進支援事業」をとおして、各学校の特色に応じた授業研究、授業作りの研修会の開催、個に応じた習熟度別指導の工夫等が推進されるよう支援してまいります。さらに、豊かな学びの環境作りのため、学校図書館支援事業やICTの充実に、より一層取り組んでまいります。